

VOS

VITALITY, ORIGINALITY AND SERVICES

長岡技術科学大学広報

JUL. 2004 No.122



特集

実務訓練

—この大学でしかできない体験—



VOS

長岡技術科学大学広報

今月の表紙

2004

No. **122**

CONTENTS

3 理事就任にあたって

4 特集 / 実務訓練

- この大学でしかできない体験 -
- ・実務訓練委員長インタビュー
- ・平成15年度実務訓練実施状況
- ・実務訓練シンポジウム
- ・実務訓練の様子

7 就職コーナー
私の就職活動体験談

8 ながおかニューライフ

10 私の抱負

12 サークル掲示板

13 キャンパスダイアリー / オープンキャンパスのお知らせ

14 新任職員紹介 / 編集後記

16 にいがたみてある記



特集 / 実務訓練 - この大学でしかできない体験 -

VOSの由来

本学のモットーである，Vitality，Originality，Servicesの頭文字をとって，本学初代学長の故川上正光氏により名付けられました。



理事（産学官連携担当）就任にあたって

理事・副学長（産学官連携担当）

川崎 篤

この度、4月1日付で理事・副学長に就任しました。産学官連携業務を担当する事となりましたが、この分野では本学の諸先輩方が開学以来、一つの大きな柱として長年にわたり熱意をもって取り組み、立派な成果を挙げて来られました。そのことに敬意を表すると同時に、責任の重さを感じております。

まずは、簡単に自己紹介をさせていただきます。昭和26年に生まれ、学生時代は横浜市で過ごし、本学開学と同じ昭和51年に慶應義塾大学・大学院・理工学研究科・修士課程（計測工学専攻）を修了後、新日本製鐵（株）に入社、製鐵事業分野【大分市や姫路市にある製鐵所の設備部門（電気・計装・計算機技術開発やエンジニアリング、マネージメント）や製鐵プロセスの計測・制御技術の研究開発部門等】に延べ約11.5年、新規事業分野【半導体デバイスの研究開発部門や新規事業（LSI事業）開発・立上げ等】に延べ約16.5年、従事して参りました。この間、オランダ、米国、シンガポール等で現地企業との最先端半導体技術の共同研究開発や、産官連携ジョイントベンチャーの設立・工場建設・操業立上げ等の経験の機会に恵まれ、また、“産”の立場から産学連携プロジェクトにも携わりました。

勤務地も転々として来ましたが、実は新潟県も長岡市も今回が初めてです。悠然と流れる信濃川や美しい新緑、そして、周囲に連なる山々の景観等、素晴らしい自然環境に恵まれ、また周囲の方々にも大変親切に接して頂き、大変ありがたく想っています。

大学勤務も初めてで、今後担当する産学官連携につきましても、まだまだ勉強途上の身ですが、本年4月からの国立大学の独立行政法人化は、各大学独

自の方針に基づく個性や魅力溢れる大学づくりと、大学運営の徹底した効率化を求め、同時に国からの財政的支援規模も、これまで以上に能動的/競争的に尽力しない限り、自然減が不可避である事など、厳しい現実もあります。そうした中で産学官連携活動では競争的外部資金獲得への期待が否応なしに膨らんでいるものと思います。国立大学の法人化が契機か、今や『産学官連携』ブームであるかの如く、このキーワードが連日、新聞紙上を賑わせていますが、本学としては、まさにこれまでの歴史が示す通り、これからも地道に、着実な成果を求め、盤石な産学連携活動を展開して行きたいと思っております。その為には（1）キラリと光り輝く研究成果・研究者集団・施設の保有（2）強力な知的財産の蓄積とその積極的活用（3）既存の各種外部資金調達スキームへのより一層の調達拡大努力（4）本学運営方針に基づく集中と選択による経営資源の効率的最適運用の徹底、そして（5）全教職員による徹底したコスト削減活動の展開が重要であると思っております。本学の風通し良く小粒でもピリッととした、小回りのきく学風の素晴らしさを武器としつつ、開学以来の『産学協同研究・事業』の実績と伝統に誇りと自信を持って全教職員のベクトル（気持ち）を束ねて進めば、必ずや明るい展望が切り拓かれる事と確信します。

本学の発展の為に、産学官連携と言う側面から、微力ながら、これまでの民間企業での職務経験等を最大限に活かしつつ全力投球で取り組んで行く所存です。学内の皆様の産学官連携事業へのご理解と積極的なご協力をお願いし、ご挨拶といたします。

ありがとうございました。

特集 実務訓練 - この大学でしかできない体験 -

今年度の実務訓練委員会委員長、生物系・渡邊和忠教授に、実務訓練についてうかがいました。

聞き手 若林 敦
(語学センター助教授・VOS専門部会長)

若林：実務訓練というのは、簡単に言うと、どういう制度なのですか？

渡邊：学部・大学院一貫教育のカリキュラムの一つとして、大学院進学予定学生全員を企業などに4か月から5か月間派遣し、実際の場での経験を積ませる教育制度です。

若林：この教育制度のねらいは、何ですか？

渡邊：私達の大学は、理念として、実践的・創造的能力を備えた指導的技術者の養成ということを謳っています。この実践的という面で、大学の中だけでの教育では限界があります。その部分を現場で学んで戻ってきて、大学院での研究生生活に活かすねらいがあります。また、創造性については、大学院に入ってから身につけていくことになるんですけども、その前提として、自分に何ができるか、自分に何が足りないかということを知る、ということですね。

若林：そのために、学生達は派遣先で実際にはどういうことをするのですか？ また、短期・中期のインターンシップ（就業体験実習）制度との違いはどのようなところにあるのでしょうか？

渡邊：私は、短期は見学型、中期は体験型、長期は実践型と分類しています。1週間程度の見学型の場合は、例えば、企業でやっているのを見て、大学で学んだことはこういうことと関係しているんだなと理解することができます。中期で1か月くらいの場合は、現場の中に入って、一応そこでやっ

ていること、こんな流れでやるのかなということを理解する。これに対して、長期実践型というのは、その現場の中で自分がある程度役に立つところまでいく。実際に企業などが行っている仕事の一部を分担させてもらって、実習なんですけれども、ある程度責任のある仕事をやる、ということに重点が置かれます。期間が1か月程度では、仕事を一生懸命教えてもらっても、ようやく覚えたくらいの段階で終わってしまうので、戦力になるところまではなかなか行きません。派遣先から見ても、長期になれば、ある程度の教育期間の後は実際の社員と同じように戦力になる場合が多いわけですね。もちろん、アルバイトとか、単なる労働力ではなく、実際そこで学生が多くのことを学んでくることは実務訓練を修了した学生の調査などから明らかになっています。これは、私達の大学が開学以来この制度を通じて培ってきた派遣先との信頼関係があって初めて実現できることで、まさにこの大学の学生にしかできない体験です。

若林：では、具体的にどのような成果があがっているのでしょうか？

渡邊：まず、実務訓練生全体に共通する成果ということでは、例えば、コミュニケーションの重要性を痛感するとい



渡邊実務訓練委員長

平成15年度 実務訓練実施状況

◎実務訓練機関と派遣学生数

| 受入機関業種(機関数) | 機械系 | 電気系 | 化学系 | 農・林・漁 | 生物系 | 経営情報系 | 合計 | |
|-------------|-------|------|------|-------|------|-------|------|-------|
| 官公庁・公団等 | 30 | | | | 19 | 16 | 3 | 38 |
| 建設業 | 15 | | | | 14 | | 2 | 16 |
| 食料品 | 6 | | 1 | | 6 | 1 | | 8 |
| 繊維工業 | 2 | 1 | | 1 | 1 | | | 3 |
| 化学工業 | 15 | 1 | 1 | 10 | 2 | 4 | | 18 |
| 医薬品 | 2 | | | | 2 | | | 2 |
| 鉄鋼業 | 2 | 2 | 1 | | | | | 3 |
| 非鉄金属 | 9 | 7 | | 3 | | | | 10 |
| 金属製品 | 1 | | | | 1 | | | 1 |
| 一般機械器具 | 28 | 23 | 6 | | 1 | 1 | 5 | 36 |
| 電気機械器具 | 42 | 12 | 50 | 7 | 3 | 3 | 7 | 82 |
| 輸送用機械器具 | 10 | 9 | 2 | | 2 | 1 | 1 | 15 |
| 精密機械器具 | 8 | 4 | 2 | | | 2 | 2 | 10 |
| その他の製造業 | 13 | 2 | 1 | 4 | 3 | 2 | 2 | 14 |
| (製造業小計) | (138) | (61) | (63) | (26) | (13) | (21) | (18) | (202) |
| 運輸通信業 | 4 | | 16 | 1 | 1 | | | 18 |
| 電力・ガス・水道 | 2 | 1 | 1 | | | | | 2 |
| サービス業 | 30 | 1 | 2 | | 31 | 1 | 2 | 37 |
| 海外の企業等 | 13 | 16 | | 2 | 2 | | 3 | 23 |
| 合計 | 232 | 79 | 82 | 29 | 80 | 38 | 28 | 336 |

◎海外への実務訓練生内訳

| | |
|--|-----|
| マレーシア マラ教育財団 | 6名 |
| 韓国 Kaya AMA | 1名 |
| スペイン カタルニア工科大学 | 2名 |
| オランダ領 クラサオ島石油精製所 | 2名 |
| タイ Thai Tabuchi Electric Co.,Ltd. | 1名 |
| タイ Toshiba Semiconductor | 2名 |
| タイ 日本電産コパル(Nidec Copal Co.,Ltd) | 2名 |
| タイ Muramoto Electron Pubric Company Ltd. | 1名 |
| ベトナム mashino auto-parts.com | 2名 |
| ベトナム キヤノンベトナム | 1名 |
| スウェーデン ボルボ・エアロ社 | 1名 |
| オーストラリア オーストラリア原子力科学機構 | 1名 |
| オーストラリア シドニー工科大学 | 1名 |
| 計 | 23名 |

うことがあります。あるプロジェクトの一員として仕事をする場合、自分に任された仕事の進捗状況や問題点をグループの中でディスカッションしなければなりません。その時に、自分の考えを正確に伝えることが非常に重要なんだということがわかる。これはやはりそういう現場に行くからです。それから、自分の客観的評価ですね。自分に何ができ、何ができないのかということが、そういう本気で仕事をしている場に入るとよくわかります。また、自分の研究と比較的近い現場では、自分が大学でやっていることの意味が見えてくる。それが大学院で研究することへの強い動機づけとなります。さらに、大学とは違う価値観を彼らは感じて帰ってきます。例えば、企業に行くときと守秘義務ということを大変厳しく言われます。それくらい、製品開発に関する情報やその仕事で得られた結果というものが大切なものなんだということ認識させられる。あるいは、時間の使い方にしても、常に効率性を考えていますよね。それに自分を合わせていく必要がある、そういう価値観というのは、大学ではなかなか教えられないところがあります。

若林：最近では、海外での実務訓練を重視しているようですが、その意義はどういうところにあるんでしょうか？

渡邊：一つは、国際的視野を獲得するということですね。いま、これだけグローバル化が進行している中で、指導的技術者、つまり全体を見渡すことのできる技術者になるには、それは欠かせない素養です。もう一つは、異文化体験、あるいはその国の社会の再認識です。仕事だけでなく、生活全般がそれまで経験したことのない異文化の中のことですから、学生は悪戦苦闘しますが、最後には、異文化の中でもやっていけるたくましさをも身につけて帰ってきます。また、コミュニケーションの重要性は日本にいるよりもずっと強く感じま

す。さらに日本にいたのでは知ることのできないその国の社会のリアルな姿を知る。例えば東



南アジアなんか実際にいけると、そのアクティビティの高さにびっくりして帰ってきますよ。

若林：なるほど。そういった多くの成果のあることが、実務訓練の高い評価にもつながっているわけですね。

渡邊：開学以来、実務訓練は今年で25年目、既に7000名余りの訓練生を出しているわけですが、例えば、会社に入って5年以上経ってから振り返っても、この体験がいま役立っているという評価が、修士修了生へのアンケートで8割の高さで出ている。実際に学生を受け入れて下さっている企業の方々や訓練を受けた学生が、実務訓練は非常にいいものだと言っていることがこの制度を続けて行く上で大きな自信になっています。文科省の「特色ある大学教育支援プログラム」への採択や、平成15年度工学教育賞の受賞、しかもそのうち1件だけの文部科学大臣賞であったことなどは、この実務訓練が本当に役に立っている制度であると認められ、高く評価してもらっていることだと思います。

若林：今年もこれから多くの4年生が派遣されるわけですが、実務訓練を実りあるものにするために、最後に、先生からのメッセージをお願いします。

渡邊：実務訓練の4か月から5か月というのは長いようですが、そこでやっていることを本気で体得しようと思うと決して長くない期間です。その間に、できるだけ多くのことを学んできてほしい。で、それを忘れないでほしいんです。だから、その体験を大学院に戻ってきて必ず活かす、その自覚を持って、元気で帰ってきてほしいですね。

(2004.06.24)

実務訓練シンポジウム - 「実務訓練への期待」 -

6月23日(水)午後一時半より五時まで、A講義室を主会場として行われました。参加したパネリストは以下の方々です。

【パネリスト】

日本電産コパルタイランド
代表取締役社長 井澤 茂氏
三菱重工業株式会社 技術本部
長崎研究所ターボ機械研究室 主任 茨木誠一氏
日産化学工業株式会社 物質科学研究所
合成研究部 主席研究員 鈴木謙二氏
日本上下水道設計株式会社 技術本部 技術開発部
プロジェクトエンジニア 玉真俊彦氏
株式会社資生堂 リサーチセンターR&D企画部
総務室 人材開発グループリーダー 岡 良廣氏
前田建設工業株式会社 第3次基幹情報システム構築プロジェクト
課長 浜野 浩氏
長岡技術科学大学 電気系教授 中川匡弘氏

パネルディスカッションでは、受け入れ先機関が実務訓練生に期待することとして、次のような発言がありました。

- 実務訓練という機会を生かすためには、自分が何をやりたいか、どうなりたいのかを、訓練先ではっきりと言うことが大事だ。そのためにも、自分がどういうことに向いているのか、自分がどんな人間かということをよく考え来てほしい。
- 長岡技大の学生は実践力や専門性の高さでは他大学に負けていない。ぜひ自信を持って来てほしい。会社が組織で仕事をしているといっても最後に問われるのは個人のモチベーションや能力だ。個人にやる気があれば、組織も変わる。私達は若い人の新鮮な意見がうれしい。遠慮せずに元氣よく参加してほしい。
- 企業を怖がる必要はない。組織の文化や風土、ルールが違うだけで、それ自体はどの組織にもある。どんなものでもいいから何か目標を持って、訓練に来てほしい。
- 知的好奇心を持った能動的取り組みを期待したい。大学で学んでいることが、実地に接すると現物として具現化していることが感じ取れると思う。

シンポジウムには、学長、副学長をはじめとする本学の教員と、今年度派遣される4年生全員が参加しました。



実務訓練の様子

実務訓練を履修して

竹内 崇晃
(電気電子情報工学専攻 1年)



私は、株式会社KDDI研究所 光信号処理グループに実務訓練に行き、そこで光ファイバとPLCを接続した時の損失を改善する為のシミュレーションと実験を行いました。訓練期間は、去年の10月6日から今年の2月20日までの約5ヶ月間です。

10月～11月

初めの1ヶ月間は、これから行なう研究に関する基礎的な勉強やビーム伝播シミュレーションソフトウェアの使い方、実験機器の取り扱い方を学びました。11月の中旬位からは、PLCサンプルを作製し、その損失を測定しました。

実務訓練生は私一人でしたが、卒業研究生として他大学の学生が二人いました。(その内の一人はスウェーデンの留学生) 留学生の人は日本語が出来ず、私は英語が出来なかったのですが、月日が経つにつれ、片言ですが意思の疎通はできるようになりました。

12月

この月は大抵、午前中にPLCサンプルの作製、そして測定をして、午後からPLCの損失をシミュレーションにより計算する、という流れになりました。この仕事は分担して行なっていたので人付き合いの大切さがよく分かりました。

忘年会では、飲んだことがない酒がでたり、出張先の国の話し等が聞けて楽しかったです。

1月

1月以降は、私が行なったシミュレーションの結果を元に、研究員の方がPLCを作製していました。なので、間違えない様に慎重に仕事をしました。

1月26日の午後、研究所内は全面禁煙になりました。きれいな夕日が見える喫煙スポットがなくなり、喫煙者として残念でした。昼によく行く、イトーヨーカドー内にある飲食店のメニューは大体食べました。

2月

指導教員が訪問に来たので、どんな研究をしているかを説明しました。2月19日には、この5ヶ月間の研究成果の社内発表があり、その日の夕方、お別れ会を開いてもらいました。20日の最終日は、技大で発表する資料を作り、身の回りの掃除などを終えたら、お世話になった会社の方々に挨拶をしてKDDI研究所を後にしました。

発表用の資料作りや、データまとめ等がなかなか終わらず、2月は常に忙しく感じました。

実務訓練での体験は、殆どが初めてのものばかりだったのでとても新鮮であったという間の5ヶ月間でした。そして、人間関係の大切さ、仕事は責任を持ってしなければならないということ、英語の重要性などがわかりました。この貴重な経験を無駄にせず、これからの大学院生活に役立てたいです。

就職コーナー

私の就職活動体験談

私の就職活動体験談

勤務先：富士ソフトABC株式会社
樽井真樹

(平成16年3月 経営情報システム工学課程卒業)

新社会人としての生活が始まり、早や2ヶ月がたとうとしています、御陰様で充実した日々を送っています。

私が就職活動を始めたのは学部3年の11月頃だったと思います。最初は企業にエントリーするだけで、2月の中旬位から企業に足を運びました。

試験は、常識試験やSPI、面接などを実施する企業が多いようです。SPIは問題自体は簡単ですが、時間が短いため、事前に練習した方が良いと思います。また、面接はどこの企業も実施していますが、短時間で人間性を判断されてしまいますので、与えられた時間で自分の長所を存分にアピールしてください。

就職活動を行うにあたって重要なことは、自分のやりたいことをしっかり意識し、就職したい会社とマッチしているかを調べることであると思います。インターネット等で、比較的公司の情報は手に入れやすいと思いますが、あくまで表向きなものであり、実際に働いてみて分かることも多々あります。できれば、入りたい企業の社員の方を訪問して話を聞いてみると、その企業のイメージがつかめ、充実した就職活動が送れるのではないかと思います。

最後に、皆様が満足いく就職活動をされ、希望する企業、職種へ就職されることを心から祈っています。



クラスの飲み会にて：筆者は右から3人目

就職活動を行うみなさんへ

勤務先：デンカ生研株式会社
島田龍一

(平成16年3月 生物機能工学専攻修了)

就職活動では、あらかじめ志望企業について調べておくことが基本です。私はある企業の筆記試験で社長の名前を出題されましたが思い出せず、迷った挙句に何を思ったか「あきら」と書いていました。その日の夜はさすがに飲まずにはいられません。面接でも同様の質問をされる事があるので、やはり準備が必要です。また、ほぼ確実に研究内容を聞かれます。小難しく面白味に欠ける説明になりがちなので、面接官の心をガッチリ掴む上手い説明を披露するとポイント高いかも知れません。基本ですが質問には真面目かつ誠実にはきはきと答えましょう。笑ってごまかすのは駄目です。余談ですが将来の目標を聞かれ「サッカー選手になりたいです!」と答えて冷たくあしらわれた人を目撃しました。

就職活動中はいろいろとストレスが溜まるので、解消法を用意しておくと思いいます。私は就職活動という名目で研究室を休み、試験の帰りに映画館や買い物に行っていました。次はどの映画を見ようかと考えると就職活動が楽しみでした。これから就職活動をはじめの方々も、適度に息抜きをしつつ、就職活動と学業を両立できるようがんばってください。



著者近影

新生活 in 技大

國本拓之(学部1年)

故郷の鳥取から約半日かけて長岡に入ったのですが、その日は真冬並に寒さが厳しく、風邪をひきそうになりました。新しい自分の部屋を見て「ここから新しい毎日が始まる」と思った時、私の心は期待と不安で一杯になりました。

入学式や合宿研修も終わり、いよいよ講義が始まりました。私の出身高校は商業高校という事もあって理数系の科目に力が入っていなかった為、そういった科目の講義が周りの友達以上に理解できなくて苦しんでいます。また毎日レポートや課題にも追われているので、時に嫌気がさして逃げ出したいと思うことさえあります。

でもそんな時はいつも、ここで知り合った多くの友達に助けられています。分からない事を教えてもらったり、話を聞いてもらったり、時には朝まで語ったりと、最高の仲間たちと笑い合いながら一緒に毎日を過ごしています。

これから先は今以上に大きな壁にぶつかるかもしれません。しかし、「世界を視野に入れたシステムエンジニア」になる事を目標として、辛い条件に立たされてもそこで逃げないように、日々の努力を怠らず、勉学に、またサークル活動や遊びにも全力を注いでいきたいです。

振り返れば、ここは最高の大学だったと思えるような毎日が過ごせたらいいな、と思います。



初ライブで熱唱

長岡での生活

辻良太(機械創造工学課程3年)

早いものでここ長岡に来て、すでに二ヶ月が経ち、洗濯物の乾かない季節になりました。私は今、学生寮に住んでいますが、今年は高専時代から数えて寮生活6年目になります。どこの寮も同じようなもので、設備などは高専とあまり変わりませんが、今の生活は高専の時とは全く違います。正直、勉強は相当忙しく、毎日、レポートかテストがあるように思います。毎日、かなり疲れるので、好きな読書もままなりません。しかし、「若いときの苦労は買ってでもしろ」と先人は言いました。今の努力はいずれ必ず報われる。そう信じてこれからの日々を過ごしていくことにします。下の写真は、機械創造工学設計演習という講義の様子です。担当の先生の温かいご指導の下、設計を行っています。

食事は毎日、第一食堂ですましている状態です。面倒くさいので、自炊をしようなんて気はさらさらありませんが、自分の好きなものばかり選んで食べてしまうのが気になるところです。実は、魚を最後に食べたのがいつだったのかなど、もう思い出せません。

長岡は、私の故郷山形県と近く、気候もあまり変わらないと思います。この慣れた環境の中で、これから多くのことを学び、成長していきたいと思えます。



筆者中央

NEW LIFE

ながおかVOSライフ

清水 憲一（建設工学専攻1年）

金沢から長岡に来て2ヶ月あまりたった五月下旬には、「長岡は蒸し暑いんだな」と感じられるほど、私生活では心の余裕が出てきました。しかし、大学院の講義や研究室の研究活動においては、まだまだ心と脳に落ち着く暇を与えてくれません。そんな私が長岡に来て感じたことをこれからほんの少しお話します。

長岡の第一印象は、金沢と比べると発展途上って感じです。これからどんどん発展して、私生活が楽しくなってくれればいいなと思います。長岡技大周辺は、良く言えば自然が多くて、勉学にはもってこいの環境であり、悪く言えば心と体の安らぐ施設が整っていないなと思います。でも、私は今の環境が一番好きです。それは、進学の第一目的である勉学に集中できる環境だからです。

私が選んだ長岡技大については、設備・講義・先生方のどれをとっても素晴らしいです。その中でも、個性豊かな先生方が多く、相談にのってもらいやすく、学生のことを考えてくださっているのを感じます。そんな長岡技大に入学できて最高だと私はつくづく思います。

このようなすばらしい環境で、自分自身の可能性を信じて、これからも勉学と自分の夢（目標）に向かってがんばっていきます。これを読まれているみなさんもぜひ長岡技大で、自分の可能性を見出してください。私の話を最後まで読んで頂き、有り難うございました。



長岡技大ソフトボール大会にて（筆者は前列、左隅）

美しい長岡 楽しい生活

姜 淑文（材料工学専攻3年）

去年の7月、私は初めて日本に来ました。きれいで、静かな長岡は自然がいっぱいあって、私は大変に美しい印象を持ちました。それからの一年間、私はまったく新しい生活を体験しました。初めて刺身を食べたり、長雨が続く夏に有名な花火を觀賞したり、秋の鮮やかな紅葉、冬の驚異的な大雪を見たりしたことはまだはっきりと覚えています。

特に、長岡の春は一番明るいです。春風が若葉を芽吹かせて、鳥がさえずり花が香ります。日本の有名な桜も満開でした。私は研究室の人と一緒に花見をして、桜の下で楽しい時間を過ごしました。桜が散って雪のようでした。本当に素敵な季節と感じました。

研究室に入って2ヶ月がたって、かなり慣れてきました。平日は、研究室で朝8時からのゼミに参加し、実験をしています。忙しいですが、充実して楽しい毎日です。週末は、私にとってリラックスするための時間です。中国や日本の料理を作ったり、登山をしたり、パーティーを開いています。今、一番困っていることは日本語の会話です。だから、日本語がもっと上手になるように、一生懸命勉強しようと思っています。

今の技大キャンパスは活気があふれていて、元気になる季節です。これも勉強するためにはいい時機です。歲月流るる如し。いろいろな勉強が私を待っているのを感じています。No pains, No gains. 学業の成功と楽しい生活を作るためにみんなと一緒に頑張ります！



My husband and I（筆者左）

私の抱負



伊 東 淳 一
(電気系 助教授)

発見の喜びを知ろう

私は8年前に長岡技大を卒業し、再び戻ってまいりました。学生時代は部活や研究室など忙しい毎日でした。就職してからも同じように忙しかったのですが、幸い就職したところは研究室と同じ分野のところでしたので、とても楽しかったです。学生時代は授業料を払ってやっていたことを、今ではお金をもらってやるとあって確かに金銭的には楽でした。でも、この世界お金だけじゃないんですよね。どんなにお金をもらってもやっぱり気が乗らない仕事もあるし、お金をもらわなくてもやりたい仕事もあるし。「楽しかった」の根幹にあるものはなんだろうと考えると、私は「発見の喜び」かなと思います。

自分で問題の解決法を見つけたときや今までできなかったことができるようになったときの達成感たるもの言葉では伝えがたいものがあります。絶対「俺ってすげー」と思います。ましてそれが世界初の技術とか、だれも考えたことがないことだったらなおさらです。在学中に一度は皆さんに味わってもらいたいです。一度味わうときっと工学の分野が大好きになると思います。楽しさを知っていれば、少々つらいことがあってもへっちゃらです。

私はみなさんに「発見の喜び」を知ってもらおうお手伝いをしにやってまいりました。長岡は面白いものがいっぱいあるので、いろいろ楽しみながら「俺ってすげー」を見つけていきましょう。



福 村 好 美
(eラーニング研究実践センター 教授)

e高等教育

4月に着任するまで、私はNTTの研究所などで、主に情報通信システムの研究開発とマネジメントを行ってきました。企業から大学へと環境が変化し、緊張しつつも新たな出発を楽しんでおります。

平成15年「通信利用動向調査」(平成16年4月14日 総務省)によれば、日本でのパソコンからのインターネット利用者数は、6,164万人(携帯電話等を含めて全体で7,730万人)で、しかも世帯におけるブロードバンド利用率が47.8%と半数近くになっています。情報化社会が進展して、豊富なマルチメディア情報を配信する基盤が整いつつあることがわかります。では、このインターネットが教育目的でどの程度利用されているかということで、インターネット利用状況を見ると、電子メール(57.6%)、情報検索(57.4%)の順番で、eラーニングでの利用は1.8%となっています。ごく単純に考えると110万人がeラーニングを使っているということになります。

一方、教育を提供する側として、高等教育に限れば、日本の大学でインターネットによる授業配信を行っているところは、20%に満たず、米国、カナダの60%前後に比べると、国土・社会制度の違いがあるにせよ高等教育のサービス面での情報化は、日本全体として遅れていると言えます。

本学においてeラーニングの研究実践を行う機会に恵まれましたので、これまで培った経験を活かして、日本のインターネット高等教育の拡大・充実に、またWebならではの新しいデジタル教材の設計を契機とした工学面からの教育改革に、微力ながら努力して行きたいと考えております。

多くの“引き出し”を

私は、15年間医療機器メーカーにて画像診断装置の研究・開発を担当して参りました。時に、共同研究先の先生から叱咤激励され、時に、放射線技師の方々から現地で怒鳴られと、波瀾に富んだ毎日でしたが、振り返り見れば、多くの失敗やトラブルは、ほんの少しの基礎知識・技術知識があれば回避でき、あるいは、次善の策を講じることができたものばかりでした。

今回、母校にて教育・研究を行うことになりました。自らを省み、まずは学生の皆さんに、広い視点から情報を蓄えられる“(知識の)引き出し”を数多く持ってもらえる講義・研究指導を実践できればと考えています。“引き出し”に、これからの人生で必要な知識・技術をなみなみと注ぐことはできませんが、少しばかりの情報(基礎・基盤)を入れられれば、“引き出し”が個々に定着されると信じています。器が固定されれば、その後、基盤の上にその都度新鮮な情報を積み重ねることができますが、器が無ければ始まりません。

教員として行うべき当たり前のことを書いたに過ぎませんが、当たり前のことから確実に進めていければ、また、学生の皆さんと共に、志高く歩を進めていければと思います。自分も発展途上であることを信じて。



石原 康利
(電気系 助教授)

私の抱負

私は1965年から鉄道システムや航空機地上誘導システム、産業用ロボット運転システム、プレス機械運転システムなどの分野で安全に関わるシステム(フェール・セーフシステム)の研究に従事してきました。近年フェール・セーフシステムの分野では、人間に優しい、つまりヒューマン・フレンドリーな機械システムや、システムの安全性がどの程度配慮されているか、それを評価する研究が盛んに行われてきました。その結果、国際的にも、また社会的にも、安全性が適切に配慮されていないシステムで万一事故が起こったとき、場合によって厳しく責任を問われるようになってまいりました。長岡技術科学大学では、寄附講座ではありますが、すでに安全工学の講義を2年余り行っています。安全工学は従来の機械設計・材料工学をはじめとして、通信を含めて、情報・制御や人間/機械システムの基礎となる学問です。これは国際安全規格が広範な技術分野で共通技術として規定されることから明らかです。国際安全規格は世界中の人が遵守すべき規準です。残念ながら、日本ではこの基礎工学をいずれの大学でも講義していません。長岡技術科学大学は現状ではわが国で唯一この講義を行っている大学です。将来ともわが校の基礎的講座・教育としていただけるように努力したく思います。



蓬原 弘一
(機械系 教授)

21世紀は感性の時代！？

21世紀を迎え、私たちの価値観は品質・性能重点主義から個人・生活重点主義へと移り変わってきました。例えば腕時計では、高性能・多機能から、それらに加えて「人になじむ」「使い心地のよい」「オリジナルの」といった消費者の心を満たす要素が重要視されはじめています。

このような、感性が脚光を浴びる社会においては、「感性」なるものを工学的な立場からモデル化し技術体系として確立する必要があります。私の研究は、これらの感性モデルを構築すること、さらにはそれらを応用して、人の「心を満たす」、「心を癒す」ことができる、ヒューマンインターフェース、デザイン支援システム、絵画、音楽などの感性教育支援システムを開発することです。

これって、現在求められている教育にも似ていませんか？「世界に通用する知識や技術だけでなく、それらを変幻自在に応用する感性・創造性を持つ学生を育てる！」

私は山口県の徳山高専から人事交流により赴任しましたが、高専で学んだことを少しでも本大学に役立てるとともに、これからの教育・研究者として必要とされているものを勉強させていただこうと思っています。そして、高専と本大学との絆をもっと強くできるように一生懸命がんばろうと思います。



大西 巖
(技術開発センター 講師)

サークル掲示板



卓球部

絆深まる部活動

松井 浩二（電気電子情報工学課程4年）

私たち卓球部は、楽しんで充実した時間を過ごすことで部員間の親睦が図れると考え、皆頑張っています。また、熱気も人一倍あるように思えます。この調子で精一杯学生生活を充実したものにすると共に、意義ある毎日を過ごしたいと思っています。

また、スポーツを生活に取り入れることで普段の運動不足、ストレスなどの解消に効果的であると実感しています。何か部活を考えている方は、卓球部を見に来て頂けますと幸いです。

現在は、新入生も増え、更に活気がある部になりました。又、部活動以外にも部員間でイベントを企画するなど楽しく活動しています。

今後は先輩と過ごす時間を大切にしていきたいと思っております。更に様々な大会で勝利を収め、部のモチベーションを高めていきたいと思っています。



エンジョイしてます!!



アメリカンフットボール部

活気ある活動

齋藤 文泰（機械創造工学課程4年）

私達アメリカンフットボール部は、日本プライベートフットボール協会（J.P.F.F）に所属し、現在社会人チームと合同で練習、試合を行っています。活動内容としては、平日の練習、週末の社会人チームとの合同練習に加え、定期的に他チームと試合もしています。去年のリーグ戦の成績は、5月から始まるボウルでは1位、秋季リーグ戦（信越リーグ）では2位となり、中日本選手権に出場することができました。

現在のメンバーはプレイヤーが10人（学部生：7人、院生：3人）、マネージャーが4人（学部生：4

人）で活動しています。平日の練習は毎週月曜日にミーティングを開いて決めています。また、皆の時間が合えば飲み会もしています。私達とアメリカンフットボールをしてみたい、興味があるという方は、一度ラグビー場に見に来て下さい。



練習風景

4月 APRIL

- 4日 春期休業終了
- 5日 入学式
学生ガイダンス(6日まで)
新入生オリエンテーション
- 6日 授業開始
- 7日 新入生合宿研修(8日まで)



- 6日 平成16年度9月入学博士後期課程学内進学(早期修了見込者)受付(11日まで)
- 12日 一般定期健康診断(14日まで)
- 22日 春季球技大会(学生)
- 24日 平成16年度第3学年願書受付(28日まで)

5月 MAY

6月 JUNE

- 7日 平成17年度大学院修士課程高専専攻科修了見込者推薦選抜願書受付
平成16年度9月入学修士課程, 博士後期課程願書受付(10日まで)
- 9日 平成17年度第3学年入試(推薦面接)
- 12日 第23回運動会
- 17日 平成17年度第3学年推薦選抜合格発表
- 21日 平成16年度大学院博士後期課程学内進学願書受付(24日まで)
- 22日 平成16年度9月入学修士課程, 博士後期課程入試(23日まで)
- 23日 実務訓練シンポジウム
- 28日 技術開発懇談会



OPEN CAMPUS オープンキャンパス

2004オープンキャンパス開催のお知らせ

本年も、本学や工学分野に興味のある方々を対象に、オープンキャンパスを行います。この機会に、大学の各分野における研究内容を聞いたり、研究室を見学して、普段体験することのできないミニ実験をしてみませんか。色々な実験装置等も用意しております。

日 時 平成16年7月31日(土) 10時~15時30分

場 所 本 学

お問い合わせ 長岡技術科学大学入学広報係まで
電話:0258-47-9258





新任職員紹介

採用・転入年月日 所属・職名 前職
最終学歴、卒業・修了年月日 大学の
学位[大学名] 専攻 趣味 自己
紹介

理事・副学長（産学連携担当）

川崎 篤（かわさき あつし）

平16.4.1 理事・副学長（産学官連携担当） 新日本製
鐵（株）・広畑製鐵所・設備部長 慶應義塾大学・大学院・
理工学研究科・修士課程（計測工学専攻）修了 昭51.3

工学修士 計測工学 旅行、音楽鑑賞、ゴルフ、酒と語
らい よく働き、よく遊び、何事にも愚直に、熱く、全力投
球、でしょうか？

機械系

蓬原 弘一（ふつはら こういち）

平16.4.1 教授 本学寄附講座教員 東京電機大学
電子工学科卒 昭39.3 工学博士[明治大学] 安全工
学 散策、音楽鑑賞 鉄道、航空機の地上誘導、道路交
通、産業用ロボット、プレス機械、など、様々な分野の安
全問題を扱ってまいりました。1990年頃からこれらの産業
分野で安全確保が共通の論理構造で実現されつつありま
す。私も微力ながらこの流れに貢献したいと思っています。

電気系

石原 康利（いしはら やすとし）

平16.4.1 助教授 東芝メディカルシステムズ（株）
長岡技術科学大学大学院 電気電子システム工学専攻修
士課程修了、平1.3 博士（工学）[長岡技術科学大学]

医用電子工学 野球、ジョギング、読書 15年間、MRI
（磁気共鳴診断装置）の研究・開発に没頭して参りましたが、
新たな研究・教育に邁進すべく、知力・体力を増強し、感
性に磨きをかけたいと思います。宜しくお願い致します。

伊東 淳一（いとう じゅんいち）

平16.4.1 助教授 富士電機アドバステクノロジー
（株） 長岡技術科学大学 大学院 工学研究科 博士（工学）
[長岡技術科学大学] パワーエレクトロニクス 登山、
テレマックスキー、バイク、温泉 長岡の地へ舞い戻っ
てきました。遊ぶこと大好きですが、よろしくお願ひします。

関 安孝（せき やすたか）

平16.4.1 助手 日本学術振興会特別研究員 長岡
技術科学大学大学院 工学研究科 材料工学専攻修了、平13.3
博士（工学）[長岡技術科学大学] 分子生物物理学
スポーツ、飲むこと 心機一転頑張ります。よろしく
お願ひします。

eラーニング研究実践センター

福村 好美（ふくむら よしみ）

平16.4.1 教授 NTTアドバステクノロジー（株）
京都大学工学部電気工学科、昭48.3 博士（工学）[名古
屋工業大学] 情報処理 読書、ガーデニング 司馬遼
太郎の「峠」に感動した記憶があります。その長岡で、大
学の発展に少しでも貢献したいと考えています。よろしく
お願ひします。

技術開発センター

大西 徹（おおにし げん）

平16.4.1 講師 徳山工業高等専門学校・機械電気工
学科・助手 平8.3 大阪電気通信大学大学院・工学研究
科・博士課程（前期）修了 博士（工学）[大阪電気通信
大学] 感性・知能情報工学 どこでもギター弾き語りラ
イブ、スキー、ボード 山口県の徳山高専から人事交流
により赴任いたしました。こちらでは、いろんなことを勉
強し、技大と高専の絆を深めるためにがんばろうと思いま
すのでよろしくお願ひします。

事務局長

佐藤 賢（さとう まさる）

平16.4.1 事務局長 東京工業大学総務部長 家庭菜
園 “ふるさととは遠きにありて” とはいかなくなりました。
微力ですが、技大発展のために頑張ります。

総務部 総務課

中島恵理子（なかじま えりこ）

平16.4.1 共済主任 長岡工業高等専門学校学生課学
生係 スポーツ観戦 4年ぶりの勤務となります。VOS
の精神をモットーにがんばります。

三宅 博（みやけ ひろし）

平16.4.1 総務主任 長岡工業高等専門学校学生課教
務係 頑張ります。

総務部 国際企画課

飯野 明正(いいの あきまさ)

平16.4.1 国際企画課長 苫小牧工業高等専門学校庶務課長 神社仏閣巡り,温泉,読書 河井継之助,米百俵などの長岡の史跡等を巡り,同時に国際企画とは何かと常に自問自答しながら,大学のためにお役に立てるように邁進して参る所存です。

総務部 会計課

西方 正雄(にししかた まさお)

平16.4.1 課長補佐 新潟大学経理部主計課総務係長 スポーツ,映画鑑賞 「明るく・楽しく・元気よく」をモットーに頑張りますので,よろしくお願ひいたします。

桐生 昌治(きりう しょうじ)

平16.4.1 情報処理主任 長岡工業高等専門学校学生課教務係 音楽鑑賞,スポーツ鑑賞 4年ぶりに東の山からUターンしてきました。頑張りますのでよろしくお願ひいたします。

野水 正幹(のみず まさもと)

平16.4.1 用度主任 新潟大学経理部経理課出納係 お役にたてるよう,一生懸命がんばりたいと思います。

総務部 産学連携・研究推進課

佐藤 昌孝(さとう まさたか)

平16.4.1 連携調整主任 大学評価・学位授与機構評価事業部評価第3課研究評価第1係 読書,ドライブ 東京勤務より3年ぶりに戻ってきました。よろしくお願ひいたします。

小出 徹(こいで とおる)

平16.4.1 連携推進主任 新潟大学学生部教務課管理係 スポーツ観戦,野菜づくり 微力ながら長岡技大発展ため尽力したいと思います。よろしくお願ひいたします。

教務部 留学生課

古杉 俊輔(こすぎ しゅんすけ)

平16.4.1 留学生課長 兵庫教育大学学生課長 テニスボール以下のちっちゃめの球技 東京(品川) 山形 兵庫(播州) 新潟と忠臣蔵緑?の異動をしています。雪が随分降ると聞いています。スキーもちょっとやるんで楽しみです。

金山 勝春(かなやま かつはる)

平15.4.1 留学生係長 長岡工業高等専門学校会計課総務係長 上手になりたいゴルフ 一生懸命頑張りますので,よろしくお願ひいたします。

教務部 図書課

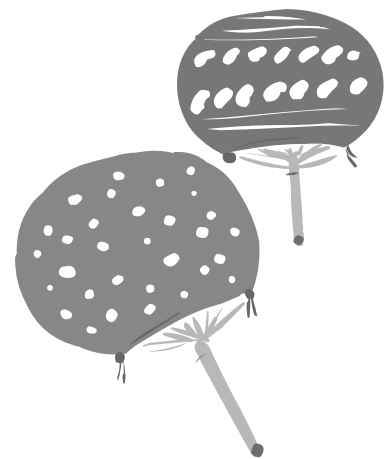
織田 裕行(おだ ひろゆき)

平16.4.1 目録情報係長 新潟大学附属図書館旭町分館運用係 立命館大学文学部卒 平2.3 美術館・博物館の探訪 初めて住む長岡での勤務を通して自分の視野を拡げようと思っています。よろしくお願ひ致します。

教務部 入試課

青山 和明(あおやま かずあき)

平16.4.1 入試課長 独立行政法人大学入試センター事業部事業第一課課長補佐 美術鑑賞,映画鑑賞,旅行 長岡の地は初めてですので,よろしくお願ひいたします。



編集後記

本号からVOSは,今までの24頁構成から16頁構成に,年5回発行から年6回発行へと変更することになりました。これにより,より速報性を持たせると共に,限られた頁数での内容をできるだけ読み易くするように努力していきたいと考えています。今回は,実務訓練を特集しましたが,読んでいただければ,方向性の一端が見えてくるのではないかと思います。これからも,「速報性」と「読み易さ」を求めつつ,本学の現状をお伝えできるよう努力したいと思っています。

にいがた みてある記

シリーズ

我が故郷飯田と長岡の 意外な関係

木村 悟 隆 (生物系 助教授)

長岡インターを入りて、帰省の途につく。緩やかな越後の起伏を過ぎて、曲がりくねった信濃に入ると、長岡ナンバーの車はめっきり減る。さらに南に下り、伊那谷に入る頃には、私の車の他には無い。隣県でありながら、長岡からは直通的なバスも電車も無い。そんな我が故郷飯田と長岡に意外な関係が有るのを知ったのは、つい最近のことである。

江戸時代、牧野家が長岡を治めたことは良く知られているが、その前、越後上杉氏の国替えに伴い、春日山城を居城にしたのが堀秀治である。堀氏は、元は美濃の斉藤道三の家来であった。その後、織田氏に大名として取り立てられ、豊臣秀吉により羽柴姓を賜り、越後に配された。

長岡には、室町時代に長尾一族が築いた蔵王堂城があり、ここに秀治の弟羽柴秀家 (= 堀親良) が入った。現在は、金峯神社の西隣に、本丸の土塁や濠の一部が遺構となって残っている。(写真左。石垣は近年整備されたもの)。今は訪れる人も少なく、写真を撮った5月末は牛蛙が低く鳴くばかりである。

越後堀家は45万石の大大名であったが、関が原の戦いから僅か十年足らずで、家臣の内紛を理由に改易されてしまう。その後、内紛の当事者であるにも関わらず、元家臣の堀丹後守直奇が、一旦信濃飯山城主になった後、改めて8万

石の城主として長岡に入った。蔵王堂城は信濃川に接し、度々水害を被ったためこれを廃し、新たに長岡城を築城するが、その完成前に、村上に転封された。

さて、堀宗家であるが、隠居していた親良が下野真岡に1万2千石で転封されて残る。その後、再び転封され、下野烏山で親良は生涯を終えた。次の代堀親昌が転封された先が、飯田である。江戸時代の転封は、現代の転勤と異なり、家来やその家族を全て引き連れてのものであった。なおかつ、移り住んだ先の年貢で家臣の一切の生活を賄う。度重なる領地の縮小の中で、家来を養うことは大変なことであつたらう。親昌は、数え年68歳にしての転封である。意欲的に平地に乏しい新領国の経営に取り組むも、1年足らずでこの世を去る。その後堀氏は、名古屋からの中継地としての商業の育成に力を入れ、明治初めまで飯田を治めた。

飯田城址には、今は、赤門を残すのみである(写真右)。本丸跡に、始祖堀秀政、親良、親昌3代を祭る長姫神社が建てられている。地元では「ごさんれいさま」と呼ばれ、子供の頃からその名前で親しんできたが、その意味を確かめたことが無かった。その名の通り、飯田の守り神たる「御三霊」であった。



蔵王堂城址の濠



飯田城赤門

VOS122号 (平成16年7月)

編集発行 / 長岡技術科学大学広報委員会 (総務部 総務課)

* 本誌に対するご意見等は下記までお寄せください。

〒940-2188 長岡市上富岡町1603-1

Tel.0258-47-9209 Fax.0258-47-9000

E-mail skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp

URL : <http://www.nagaokaut.ac.jp/>